

令和4年度「民学産公」協働研究事業 実績報告書

地域課題に対する支援拠点としての
公共図書館についての実践的研究

2023年2月

吉田渉、貫井政文（まちづくり研究員）

目 次

1 「民学産公」協働研究事業の概要・目的	2
1.1 研究事業の背景	
1.2 研究事業の概要・目的・方法・意義	
1.3 研究事業の特徴	
1.4 研究事業の期間	
2 申請者のプロフィール	6
3 インタビュー調査結果の概要	7
3.1 インタビュー調査の概要	
3.2 三鷹市立図書館でのビジネス相談	
3.3 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル	
3.4 研究事業の開催時期・開催場所	
4 三鷹市立図書館でのビジネス相談	10
4.1 ビジネス相談に至る経緯	
4.2 ビジネス相談の概要	
4.3 ビジネス相談の開催結果	
5 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル	14
5.1 外国人ビブリオバトルの概要	
5.2 外国人ビブリオバトルの開催結果	
5.3 アンケート調査結果	
6 まとめ	18
6.1 三鷹市立図書館でのビジネス相談	
6.2 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル	
【参考文献】	20

1. 「民学産公」協働研究事業の概要・目的

1.1. 研究事業の背景

公共図書館の利用者の実態として、文部科学省の「図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会」は、「地域の情報ハブとしての図書館－課題解決型の図書館を目指して－¹⁾」(2005)の中で、「利用頻度の高い少数の住民と利用のまったくない多数の住民に二極化」しており、今のままのサービスの延長線上には利用状況の変化は見込めないと指摘している。今後は、これまで公共図書館とは無縁であった住民や団体等の利用を促すとともに、彼らに対して改めて公共図書館の魅力や公共図書館ができることを発信していくことが求められる。その方法の1つとして、地域の住民や団体等が取り組んでいる地域の課題を把握し、その課題解決を支援する課題解決型図書館としての機能があげられる。課題解決型図書館については、「地域の情報ハブとしての図書館」の中で、公共図書館が取り組むべき地域の課題として以下の6つをあげている。(A)ビジネス支援、(B)行政情報提供、(C)医療関連情報提供、(D)法務情報提供、(E)学校教育支援・子育て支援、(F)地域情報提供・地域文化発信の6つであるが、本研究事業では、その中で地域課題としての(A)ビジネス支援と(B)行政情報提供に注目する。

三鷹市立図書館は、2015年策定の「第4次三鷹市基本計画(第1次改定)²⁾」で示された施策・事業の推進にあたり、図書館の機能と役割と運用方向性を明確にするため、2017年に「基本的運営方針」を策定し、図書館活動を進めてきた。その基本理念においては、「市民の自主的な学習を支援し、市民の生活の中にある課題を解決する地域の情報拠点、次世代を担う子どもたちをはじめとするすべての市民の豊かな読書活動の拠点」として「図書館活動を推進」すると明文化しており、そのため以下の4つの柱を据えている。(1)「知る」「調べる」「学ぶ」を支える図書館、(2)すべての人に読書の楽しみを広げる図書館、(3)市民とともに歩み、交流する図書館、(4)市民の期待に応える図書館、の4つである。その1つである「(1)「知る」「調べる」「学ぶ」を支える図書館」では、「市民の要望や社会の要請に応じるため、地域の情報拠点として各種情報資源の収集に努めるとともに、市民の学びを支援し、知的探求及び課題解決を支援します」というように、市民の課題解決の支援を謳っており、それに係る事業として「地域資料及び行政資料の収集」や「レファレンスサービスの充実」等をあげている。

吉田・松本・貫井(2022)では、これらを踏まえて、地域課題としてのビジネス支援に注目するとともに、地域課題としての行政情報提供、とりわけ外国人住民への行政情報提供に注目し、三鷹市立図書館を事例としてそれら地域課題に対する支援拠点としての有効性について検討した。研究結果からは、三鷹市立図書館が現状では支援拠点として有効に機能していないことが確認できたため、地域課題に対する支援拠点として機能させるために、他自

¹⁾ 参照：文部科学省「地域の情報ハブとしての図書館(課題解決型の図書館を目指して)」、https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm、2023年1月14日閲覧。

²⁾ 参照：三鷹市「第4次三鷹市基本計画(第1次改定)」、https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/052/052547.html、2023年1月14日閲覧。

治体の課題解決型図書館を参考に有効な取り組みを取り上げ、以下の4つを提言した。(A)三鷹駅前図書館でのビジネス支援コーナー設置と研修等による担当図書館員のビジネススキル・アップ、(B)まちづくり三鷹や三鷹ネットワーク大学への委託も含めた他組織との連携、(C)外国人住民に図書館に来てもらう取り組みの実施、(D)来館外国人に対応可能な体制の構築の4つである。

1.2. 研究事業の概要・目的・方法・意義

今回の「民学産公」協働研究事業においては、吉田・松本・貫井（2022）の研究を発展させた形の研究事業を実施する。具体的には、研究結果を踏まえた(A)～(D)の4つの提言の中の2つを取り上げて、それらを発展させた形で実践的な研究事業を行う。取り上げる提言は、(A)三鷹駅前図書館でのビジネス支援コーナー設置と研修等による担当図書館員のビジネススキル・アップと(C)外国人住民に図書館に来てもらう取り組みの実施の2つである。

提言(A)を発展させた形の研究事業は、「三鷹市立図書館でのビジネス相談の開催」である。三鷹市立図書館において、まちづくり研究員であり中小企業診断士として中小企業大学校等で講師をつとめる貫井政文（本プロジェクトメンバー）が、希望者に対応するビジネス相談を開催する。具体的な内容は、起業予定者や既に事業を行っている経営者に対するビジネス相談であり、三鷹市立図書館の担当者と相談のうえ進めていく。提言(C)を発展させた形の研究事業は、「三鷹市立図書館での外国人発表者によるビブリオバトルの開催」である。三鷹市立図書館において、まちづくり研究員であり法政大学大学院特任講師をつとめる吉田渉（本プロジェクトリーダー）が、外国人発表者によるビブリオバトル（以下「外国人ビブリオバトル」とする）を開催する。具体的には、新宿区立大久保図書館で定期開催されている外国人ビブリオバトルを参考とし、三鷹市立図書館の担当者と相談のうえ進めていく。

尚、提言(A)を発展させた形の研究事業としては、当初、三鷹市立図書館での「ビジネス相談の開催」の他に「ビジネス支援セミナーの開催」も選択肢として想定していた。しかし、各担当者へのインタビュー調査結果を踏まえて検討した結果、「ビジネス相談」のみ開催することとなった。その経緯の詳細については、後述する。

本研究事業の目的は、第1に、三鷹市立図書館でのビジネス相談を開催することによって、起業を考える個人や地域におけるコミュニティビジネスを考える人々に対してビジネス支援をするとともに、自立した個人の育成や地域活性化に対して貢献することである。第2に、三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトルを開催することによって、これまで図書館とは無縁であった外国人に図書館への来館を促すとともに、ビブリオバトルを通じた外国人と日本人の「本を通しての国際交流」を進めることである。

本研究事業の方法は、第1に、三鷹市立図書館、三鷹商工会、まちづくり三鷹の担当者へのインタビュー調査である。具体的には、2つの研究事業の実施場所となる三鷹市立図書館の意見や協力体制等について把握するために、三鷹市立図書館担当者へのインタビュー調査を実施する。また、三鷹商工会およびまちづくり三鷹の担当者に対しては、三鷹市立図書

館におけるビジネス支援やビジネス支援での他組織との連携等について把握するために、インタビュー調査を実施する。第2に、三鷹市立図書館でのビジネス相談の開催である。具体的には、三鷹市立図書館において起業予定者や既に事業を行っている経営者に対してビジネス相談を開催する。第3に、三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトルの開催である。外国人発表者がおすすめの書籍を持ち合っ持ち時間内で日本語で書評した後に、見学者が一番読みたくなった本であるチャンプ本を決定する。

本研究事業の意義は、今回の「民学産公」協働研究事業を通して、三鷹市立図書館とは無縁で利用頻度が低い住民や団体等に対して図書館の魅力等を発信することで彼らの利用を促すことである。また、それによって、三鷹市立図書館の地域課題に対する支援拠点としての有効性を少しでも機能させることである。

1.3. 研究事業の特徴

本研究事業の特徴を、検証性、先見性、社会貢献という点から考えてみる。まず、検証性についてである。本研究事業では、公共図書館における利用者のビジネス支援のニーズ等を検証するとともに、外国人の公共図書館の利用意向や本を通じた国際交流意向等を明らかにする。

本研究事業の先見性は、課題解決型図書館という視点から、地域課題に対する支援拠点としての有効性について検討した点にある。また、公共図書館ではあまり実施されていない外国人ビブリオバトルに注目した点でも先見性がある。

本研究事業を社会貢献という点からみると、起業を考える個人や地域コミュニティビジネスを考える人々に対するビジネス支援は、地域活性化等に対して役立つ取り組みである。また、外国人ビブリオバトルの開催は、日本人との国際交流を進める取り組みであり、外国人の社会参加を促す点でも社会に貢献できる。

1.4. 研究事業の期間

本研究事業の実施期間は2022年6月から2023年2月までであり、研究事業の実施機関と実施内容についてのスケジュールは表1の通りである（詳細は【様式③】）。尚、実施に際しては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、三鷹市立図書館と協議を重ね、最新の注意を払った。

2. 申請者のプロフィール

本研究事業は、三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」支援枠での採択であり、実施体制は以下の通りである。

■プロジェクトリーダー

吉田 渉

- ・三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」
- ・法政大学大学院特任講師
- ・一般社団法人地域資源研究所代表理事

■プロジェクトメンバー

貫井 政文

- ・三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」
- ・中小企業診断士
- ・一般社団法人地域資源研究所代表理事

3. インタビュー調査結果の概要

3.1. インタビュー調査の概要

本章では、2つの研究事業である三鷹市立図書館での「ビジネス相談」および「外国人ビブリオバトル」を開催するにあたり、関連する部署や組織へのインタビュー調査を実施した。インタビュー調査の対象者は、以下の3人である。

- (1) 三鷹市立図書館の担当者
- (2) 三鷹商工会の担当者
- (3) まちづくり三鷹の担当者

(1)に対しては2022年8月に、(2)に対しては同年9月に、(3)に対しては同年10月に半構造化インタビューを実施した。調査内容は、(1)に対して、ビジネス関連では(A)ビジネス支援の取り組み、(B)ビジネス関連の選書、(C)来館者への情報提供、(D)他組織との連携について尋ね、外国人関連では(A)外国人利用、(B)多言語対応、(C)外国人ビブリオバトルについて尋ねた。また、(2)と(3)には(A)図書館におけるビジネス支援、(B)ビジネス支援に関する他組織との連携について尋ねた。

3.2. 三鷹市立図書館でのビジネス相談

最初に、ビジネス相談に関するインタビュー調査の概要についてである。

三鷹市立図書館の担当者に対しては、(A)ビジネス支援の取り組み、(B)ビジネス関連の選書、(C)来館者への情報提供、(D)他組織との連携について尋ねた。また、三鷹商工会およびまちづくり三鷹の担当者に対しては、(A)図書館におけるビジネス支援、(B)ビジネス支援に関する他組織との連携について尋ねた。それぞれのインタビュー調査結果の内容について要約すると、以下の通りである。

(1) 三鷹市立図書館の担当者へのインタビュー調査結果

(A)ビジネス支援の取り組み

- ・専任司書を配さず一般の市職員が担当する三鷹市の人事体制のもとでは、専門性の蓄積が十分に望めないため、図書館員がビジネス支援を担うことは困難である。
- ・限られた人員の中で業務を行っているため、図書館員がビジネス支援への意欲・関心を持たない限り、継続的にビジネス支援を続けることは難しい。

(B)ビジネス関連の選書

- ・図書館の機能である図書の提供は可能であるが、専門性が不足しているため変化が早いビジネス関連の選書に注力することは困難である。
- ・ビジネス関連の選書に関する市内他組織からの推薦や提案に対しては、ある程度であれば予算を振り向けてビジネス支援に活用してもらうことも可能である。

(C)来館者への情報提供

- ・図書館内での情報提供では、三鷹ネットワーク大学についてはパンフレットの置き場を作って情報提供する取り組みはできている。三鷹商工会やまちづくり三鷹等でも同様な取

り組み方をしてもらうことは可能である。

(D)他組織との連携

- ・人員体制の面や人事異動によってノウハウが継承されないという面から、他組織との連携はできていない。

(2) 三鷹商工会の担当者へのインタビュー調査結果

(A)図書館におけるビジネス支援

- ・専門性の蓄積や蔵書数が十分ではなく、インターネット上の通信販売では図書館の蔵書をはるかに超える選択の余地がある状況の中では、図書館におけるビジネス支援の困難さを感じる。

(B)ビジネス支援に関する他組織との連携

- ・これまで三鷹市内では各組織が創業支援や経営支援を半ばバラバラに実施しており、利用者の分かりづらさや資源の無駄遣いが懸念される。この点からも他組織との連携の必要性を感じており、在住者に加えて在勤者や在学生も対象にした施策づくりで連携を進めていくことを視野に入れている。
- ・ビジネス支援に関する図書館との連携では、図書館の専門性が不足している状況の中では連携のメリットが少ないため、図書館における専門性の蓄積が連携に向けての鍵となる。

(3) まちづくり三鷹の担当者へのインタビュー調査結果

(A)図書館におけるビジネス支援

- ・実際に副業・創業する前段階として、漠然とした構想段階がある。まちづくり三鷹には現状そうした段階の人たちへの受け皿は存在していないので、図書館は彼らの目に止まる情報提供機能となり得ると期待できる。
- ・女性やシニア層の活躍が望まれることから、漠然とした副業・創業ニーズを持った人たち³へアクセスできて、彼らの行動を促す図書やセミナー・相談等についての情報提供ができれば魅力である。
- ・理想としては、学びや地域活動や仕事等の必要な情報がどこにあるかをナビゲートする機能が図書館にあるとよい。

(B)ビジネス支援に関する他組織との連携

- ・ビジネス支援には学びや副業や生計等の多様なニーズがあるが、三鷹市では、三鷹ネットワーク大学は学び、三鷹市市民協働センターは地域活動、三鷹商工会は既存事業者、まちづくり三鷹は創業等に概ね対応しているため、相談者を相応しい組織に紹介する等の連携

³ 起業・創業に至る段階として主に、(A)具体的に起業を意識している訳ではないが選択肢としては認知している段階、(B)起業に向けて具体的な準備を始めている段階、(C)起業して事業展開を始めている段階、の3つの段階があるが、既存のビジネス支援では(B)(C)の段階へのアプローチとなる。具体的な起業像としては漠然としているものの、対象がより広範な(A)の段階へのアプローチは既存の枠組みでは困難であるため、図書館を利活用したアプローチは有効な手段の1つとなり得ると考えられる。

をしてきた。

- ・この2年間は、他組織との情報共有を目的に、年に数回「連絡会議」を実施してきた。他組織との連携で支障となるのは、個人情報の受け渡しができないため、相談者個人に関わる十分な情報連携が困難な点である。

3.3. 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル

三鷹市立図書館の担当者に対して、(A)外国人利用、(B)多言語対応、(C)外国人ビブリオバトルについて尋ねた。インタビュー調査結果の内容について要約すると、以下の通りである。

(A)外国人利用

- ・図書館システムでは国籍の登録ができないため、外国人利用者数は判別できないが、一定程度目視でき、特に週末が多い。
- ・外国人利用者にとって図書館への登録は難しいかもしれず、外国人利用者にとっては使い勝手は悪い。

(B)多言語対応

- ・三鷹市ホームページの自動翻訳（3カ国語対応）が利用可能だが、図書館ホームページでは対応していないため、一定人口がある言語は対応したい。
- ・外国語書籍も購入するようになってきたが、日本語が理解できない外国人利用者への情報伝達が困難である。

(C)外国人ビブリオバトル

- ・これまでに外国人ビブリオバトルの開催経験はない。
- ・新型コロナ拡大前までは、毎年三鷹市立図書館本館において図書館フェスの際に日本人発表者によるビブリオバトルを実施していたので、外国人ビブリオバトルを実施するならそのタイミングがよい。
- ・日本人も気軽に参加できるので、外国人によるビブリオバトルを日本語でやることには賛成である。

3.4. 研究事業の開催時期・開催場所

三鷹市立図書館担当者へのインタビュー調査結果を受けて、ビジネス相談および外国人ビブリオバトルの開催時期については、担当者了承のもと図書館フェスの開催日にあたる2022年10月29日に開催することに決定した。また、開催場所についても、同日図書館フェスが開催される三鷹市立図書館本館で行うことに決定した。

4. 三鷹市立図書館でのビジネス相談

本章では、ビジネス相談の概要と実施状況について報告する。

4.1. ビジネス相談に至る経緯

これまでのインタビュー調査からは、ビジネス支援に関する専門性の蓄積ができていない状況下での図書館単独のビジネス支援は現実的ではないということが確認できた一方で、図書館利用者が必要とする情報のナビゲート機能を高めていくことには期待できるということも確認できた。このことから将来的には、図書館と他組織との連携によってビジネス支援を促進していくことが地域課題の解決策の1つになると考えられる。

この視点を踏まえ、ビジネス相談またはビジネス支援セミナーを開催することで、利用者ニーズや組織間連携に向けた課題等を明らかにしていくことが求められる。筆者のこれまでのコンサルティング経験や参考文献を踏まえ、ビジネス相談またはビジネス支援セミナーのテーマについては、(A)創業・起業の進め方、(B)マーケティング策（顧客の獲得方法）、(C)資金繰りの改善、(D)補助金の活用方法、(E)人材採用、(F)アイデア発想法（デザイン思考等）等を抽出して準備を行った。

ビジネス相談またはビジネス支援セミナーのどちらを開催するかについて考えた場合、まちづくり三鷹の担当者へのインタビュー調査からはセミナーでの集客が困難であることが確認できた。この点から、ビジネス支援が認知されていない図書館でのセミナー開催ではなく、図書館からの情報発信への反応を検証しやすい個別のビジネス相談を開催することとした。

4.2. ビジネス相談の概要

ビジネス相談の内容や告知方法については以下の通りである。

(1) ビジネス相談の内容

ビジネス相談は、2022年10月29日の三鷹市立図書館本館での「第7回 図書館フェスタ⁴」での開催を予定した。

対応形式は、一般的な事業者等（創業構想段階も含む）の相談形式と同様に、相談者と相談対応者が1対1で相談を行う個別形式とした。詳細は以下の通りである。

- ・場 所 : 三鷹市立図書館本館 2階集会室
- ・日 時 : 2022年10月29日(土) (A)14:00～14:45、(B)14:45～15:30（先着各1人）
- ・相談範囲 : 創業前、創業構想中、創業後、既存事業者等の課題に幅広く対応（主に、創業・起業の進め方、資金繰りの改善、マーケティング策、人材採用、補助金活用等を想定）
- ・相談対応者 : 中小企業診断士として相談対応の経験を有する本プロジェクトメンバーの貫井政文が担当

⁴ 参照：三鷹市立図書館「第7回 図書館フェスタ」、<https://www.library.mitaka.tokyo.jp/info;jsessionid=B3004F953FA08C08D89EE62854A04C21?0&pid=1656>、2023年1月14日閲覧。

- ・予約方法 : 図書館本館総合カウンターまたは電話にて先着順での受付

(2) ビジネス相談の告知方法

現状では、三鷹市立図書館でのビジネス支援に関する情報発信はまったく行われていない。このため、まずは利用者に「ビジネス相談がある」という認知をしてもらう必要があるため、情報発信のための告知チラシを作成し、複数箇所での掲示など露出度を高めることを試みた(図1)。

具体的には図2のように、左から「図書館本館入口にA3サイズの掲示」、「持ち帰り用チラシの準備」、「産業コーナーのエンド複数箇所での掲示」等である。

その他には、告知チラシ(図1)にある2次元バーコードから本プロジェクトメンバーが属する団体ホームページに誘導し、告知チラシや相談担当の詳細プロフィールを確認できるようにした。

また、三鷹図書館ホームページにおいても、図書館フェスタのプログラム案内に盛り込んで告知した(図3)。

無料

第7回 図書館フェスタにて

『ビジネス相談会』を開催します

個別実施 先着2名

相談内容は、創業・起業の進め方、資金繰りの改善、マーケティング策、人材採用、補助金の活用など、お気軽にご参加ください。

- 経営している会社の資金繰りに不安がある・・・
- 将来的に独立を考えているけれど、興味を生かした独立までの準備はどのようなすればよいか・・・
- 「〇×」な商品・サービスを考えているけれど、具体的な販売方法がわからない・・・

相談担当プロフィール

貫井 政文 法政大学地域研究センター 客員研究員
(ぬくいまさふみ) 一般社団法人地域資源研究所 代表理事
中小企業診断士

流通業界(物流管理・商品企画)に従事した後、2010年より中小企業診断士として活動しています。専門領域は、創業・起業、マーケティング支援、人材育成、事業計画策定や補助金活用など。

日時 2022年10月29日(土)

① 14:00~14:30
② 14:45~15:15

場所 三鷹図書館(本館)
三鷹市上連雀8丁目3番3号

※お申込みは、三鷹図書館(本館)総合カウンターまたは電話【0422-43-9151】にてお願いします。

図1 ビジネス相談の告知チラシ



図2 三鷹市立図書館本館での事前告知の状況

ジャズバンドによる演奏

- 午前10時30分から午前11時まで
- 午前11時30分から午後0時まで
- 午後2時から午後3時まで

小学生向け謎解きゲーム（みたかとしょかん図書部！）

午後0時30分から午後2時30分まで（問題用紙の配布は午後2時まで）

みたかとしょかん図書部！が出題する謎に挑戦しましょう。答えは図書館の中に隠れています。
全問正解者には、みたかとしょかん図書部！開催の「しおりコンテスト」の最優秀作品のしおりをプレゼント。

ショートショートコンテスト冊子プレゼント（みたかとしょかん図書部！）

みたかとしょかん図書部！が企画実施したショートショートコンテストの応募作品を冊子にして配布します。
ご希望のかたは、カウンターにおいでください。30冊限定配布です！

サポーターおすすめ本の展示

三鷹図書館サポーターが選んだおすすめ本を展示します。

ビブリオバトル

午後1時から午後2時まで

外国人のかたによるビブリオバトルを行います。

※三鷹ネットワーク大学「民学産公」協働研究事業「地域課題に対する支援拠点としての公共図書館についての実践的研究」として、まちづくり研究員のかたが開催するプログラムです。

中小企業診断士による無料ビジネス相談会

午後2時から午後3時30分まで

[詳細はこちらをご覧ください。 \(PDF:10SKB\)](#)

※三鷹ネットワーク大学「民学産公」協働研究事業「地域課題に対する支援拠点としての公共図書館についての実践的研究」として、まちづくり研究員のかたが開催するプログラムです。

おはなし会

午後3時から午後3時30分

「おはなしどんどこ」による紙芝居などの読み聞かせを行います。

ハンドベル演奏

午後3時30分から午後4時まで

大成高校ハンドベル同好会による演奏を行います。

図3 三鷹市立図書館ホームページでの告知内容（「第7回 図書館フェスタ」案内）

4.3. ビジネス相談の開催結果

ビジネス相談は、2022年10月29日の三鷹市立図書館本館での「第7回 図書館フェスタ」での開催を予定し準備を進めた。

開催結果としてはビジネス相談への申し込みがなく、実際のビジネス相談は発生しなかった。問い合わせ等に関しては、図書館本館への問い合わせは無かったものの、本プロジェクトメンバーが属する団体ホームページへの閲覧者⁵が数人存在したこと、日時の都合で申し込みには至らなかったが本プロジェクトメンバーの情報発信により興味を持った候補者が1人いたこと等、ある程度の関心を引くことはできた。

⁵ 情報発信ページは隠しページになっているため、告知チラシの2次元コードから直接訪問したと考えられる。

5. 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル

本章では、外国人ビブリオバトルの概要と開催状況および開催後のアンケート調査結果について報告する。尚、報告に際しては、外国人ビブリオバトル開催による図書館への外国人来館効果および本を通しての国際交流を念頭におく。

5.1. 外国人ビブリオバトルの概要

ビブリオバトルは、お気に入りの本を紹介し合うゲームで、知的評価合戦とも言われており、具体的なルールは以下の通りとなる（ビブリオバトル普及委員会 2015）。

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に1人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
4. すべての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

外国人ビブリオバトルは、発表者を外国人に限定し、その外国人の発表者がお気に入りの本を持ち寄り紹介し合うものである。三鷹市立図書館本館において開催する外国人ビブリオバトルでは、それらのルールを参考にしつつ、実際に毎年外国人ビブリオバトルを開催している新宿区大久保図書館の「ビブリオバトル・インターナショナル・オオクボ⁶」のルール等をもとにして、以下に示すルールで開催することとする。

1. おすすめの本を選んで集まる。
2. 順番に1人5分以内で日本語で紹介する。
3. 質問タイムで気になったことを聞く。
4. 読みたいと思った本に投票する。
5. チャンプ本（投票が1番多かった本）を決める。

5.2. 外国人ビブリオバトルの開催結果

実際の外国人ビブリオバトルは、2022年10月29日の三鷹市立図書館本館での「第7回図書館フェスタ⁷」の際に開催した。開催場所は本館入口のホールで、着席見学者と立ち見の見学者、入出館の際に一時的に立ち止まって見ていく見学者等がいたが、正確な見学者の人数は把握できなかった。

発表者として参加した外国人4人の国籍は、インドネシア、ベトナム、中国、ドイツで、紹介された本の内容はそれぞれ、人工知能、ベトナム文学、ビジネス書、ドイツ文学である。具体的な書籍名等は以下の通りである。

- ・タイトル：「別冊 ゼロからわかる人工知能 完全版」（ニュートン別冊）

⁶ 参照：新宿区「第4回「ビブリオバトル・インターナショナル・オオクボ」が開催されました」、http://www.foreign.city.shinjuku.lg.jp/jp/goraku/goraku_40/、2023年1月14日閲覧。

⁷ 参照：三鷹市立図書館「第7回 図書館フェスタ」、<https://www.library.mitaka.tokyo.jp/info;jsessionid=B3004F953FA08C08D89EE62854A04C21?0&pid=1656>、2023年1月14日閲覧。

・タイトル：「草原に黄色い花を見つける (Tôi thấy hoa vàng trên cỏ xanh)」

著 者：ゲエン・ニャット・アン (Nguyễn Nhật Ánh)

翻 訳：加藤 栄

・タイトル：「13歳から分かる！7つの習慣 自分を変えるレッスン」

著 者：「7つの習慣」編集部

・タイトル：「Gut gegen Nordwind (北風の吹く夜には)」

著 者：Daniel Glattauer (ダニエル・グラッタウアー)

翻 訳：若松宣子 (日本語版)

当日の三鷹市立図書館本館での図書館フェスタの状況および実際の外国人ビブリオバトルの開催状況は、以下の画像の通りである (図4・図5)。

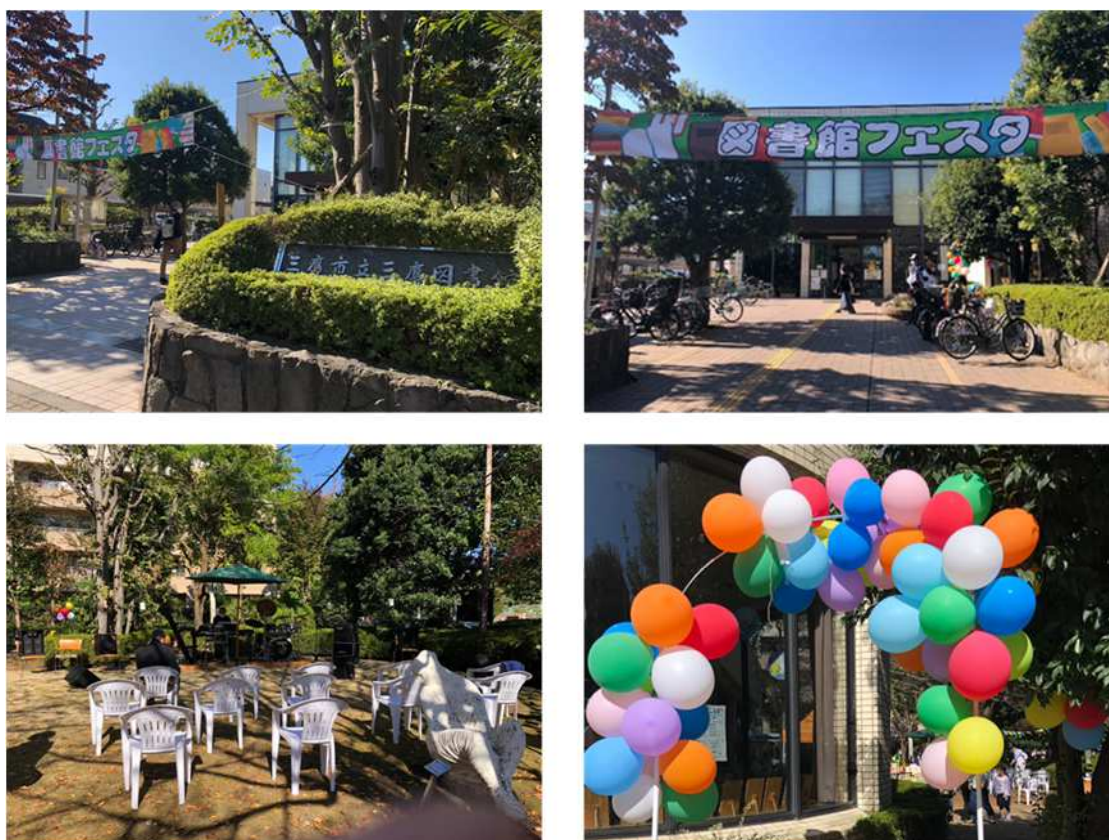


図4 図書館フェスタの状況



図5 外国人ビブリオバトルの開催状況

それぞれの発表の後に、質疑応答を行い、一番読みたくなった本を投票してもらった。その結果、ベトナム文学の本が最多票を集めてチャンプ本となった。終了後は、アンケート調査への記入を依頼し、その後は参加者間の歓談が続いた。

5.3. アンケート調査結果

外国人ビブリオバトル開催後のアンケート調査は、発表者と見学者の双方に対して実施し、発表者4人から回答を得るとともに、見学者は13人から回答を得た。調査内容は、(1)外国人ビブリオバトルに対する満足度、(2)外国人ビブリオバトルの来館効果、(3)外国人ビブリオバトルの交流効果についてであり、(1)と(2)については発表者と見学者の双方に対して実施し、(3)については外国人である発表者に対してのみ実施した。アンケート調査結果は以下の通りである。

(1) 外国人ビブリオバトルに対する満足度

見学者、発表者ともに満足度（「満足した」と「どちらかといえば満足した」の合計）が高いが、見学者ではより「満足した」の比率が高い（表2）。

表2 外国人ビブリオバトルに対する満足度 (NAは無回答)

	見学者 (n=13)	発表者 (n=4)
満足した	7	1
どちらかといえば満足した	3	3
どちらかといえば満足しなかった	1	
満足しなかった		
NA	2	

(2) 外国人ビブリオバトルに対する来館効果

見学者、発表者ともに外国人ビブリオバトルは外国人の来館者を増やす効果（「効果がある」と「どちらかといえば効果がある」の合計）が高いが、見学者では「どちらかといえば効果はない」という意見もある（表3）。

表3 外国人ビブリオバトルの来館効果

	見学者 (n=13)	発表者 (n=4)
効果がある	6	1
どちらかといえば効果がある	5	3
どちらかといえば効果はない	2	
効果はない		

(3) 外国人ビブリオバトルの交流効果

外国人である発表者は、外国人ビブリオバトルは図書館での日本人との交流効果（「効果がある」と「どちらかといえば効果がある」の合計）が高いとしている（表4）。

表4 外国人ビブリオバトルの交流効果

	発表者(n=4)
効果がある	3
どちらかといえば効果がある	1
どちらかといえば効果はない	
効果はない	

6. まとめ

本章では、三鷹市の担当者へのインタビュー調査や図書館フェスタでのビジネス相談や外国人ビブリオバトルの開催結果を踏まえて、研究事業の目的に沿って整理する。また、今後どのように持続・発展させていくのかについても触れる。

6.1. 三鷹市立図書館でのビジネス相談

最初に、ビジネス相談について整理する。ビジネス相談の開催は、吉田・松本・貫井(2022)の研究結果の提言の1つである「(A)三鷹駅前図書館でのビジネス支援コーナー設置と研修等による担当図書館員のビジネススキル・アップ」のためのきっかけとなる研究事業である。

ビジネス相談の結果は申し込みがなく相談が発生しなかったことは残念だったものの、興味を持った相談候補者がいたことから、図書館におけるビジネス支援ニーズの存在が確認できた。しかし、現在三鷹図書館ではビジネス支援に関する情報発信がまったく行われておらず、利用者にとっては図書館とビジネス支援が結びついていないため、そうした中でのビジネス相談は時期尚早であったかもしれない。

一方、「起業に向けて具体的な準備を始めている起業準備者」や「起業して事業展開を始めている起業家」としか接することができない他組織と比べて、「実際に起業する前段階の漠然とした起業ニーズを持った起業予備群」と接することができる可能性があることが図書館の大きな利点である。これは、女性やシニア層の活躍が望まれる現状にも合致している。また、図書館には「必要な情報がどこにあるかをナビゲートする機能」も期待されている。

本研究事業の結果からは、ビジネス支援に関する専門性の蓄積ができていない状況下での図書館単独のビジネス支援は継続性が望めないことと、まちづくり三鷹等のビジネス支援の専門性を有する連携可能な他組織が存在し連携可能であることが確認できた。そこで今後は、吉田・松本・貫井(2022)の研究結果の提言「(B)まちづくり三鷹や三鷹ネットワーク大学への委託も含めた他組織との連携」を進めていくことが求められる。また、図書館においても、ビジネス関連の必要な情報を分かりやすく利用者に発信することと、特に、他組織ではアクセスできない起業予備群への情報発信が求められる。

6.2. 三鷹市立図書館での外国人ビブリオバトル

続いて、外国人ビブリオバトルについて整理する。外国人ビブリオバトルの開催は、吉田・松本・貫井(2022)の研究結果の提言の1つである「(C)外国人住民に図書館に来てもらう取り組みの実施」を発展させた形の研究事業である。整理においては、発表者や見学者へのアンケート調査結果も踏まえていく。

三鷹市立図書館では外国人利用者は一定程度見られるが、外国人利用者にとって現在の三鷹市立図書館は使い勝手がよくないことが確認できた。また、外国人利用者に対する多言語対応も不十分であることも確認できた。今後は、他部署や他組織とも連携しつつ、外国人利用者へのサービスを整備していくことが求められる。

外国人ビブリオバトルについては、事前のPR不足という指摘もあったが、見学者、参加

者ともに満足度、来館効果、交流効果に対して肯定的回答が目立った。今後は、事前PRをしっかりと行いつつ継続的に外国人ビブリオバトルを開催することで、これまで図書館とは無縁であった外国人に図書館への来館を促すとともに、外国人ビブリオバトルを通じた外国人と日本人の「本を通しての国際交流」を進めることが求められる。

【参考文献】

- 新井一（2019）『会社で働きながら6カ月で起業する』ダイヤモンド社
- 安斎勇樹・塩瀬隆之（2020）『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤敏克（2019）『小さな会社の「安定経営」の教科書』clover出版
- 井上達也（2016）『起業を考えたら必ず読む本』明日香出版社
- エドガー・H・シャイン（2017）『謙虚なコンサルティングクライアントにとって「本当の支援」とは何か』英治出版
- 加藤雅俊（2022）『スタートアップの経済学－新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』有斐閣
- 木浦幹雄（2020）『デザインリサーチの教科書』ビー・エヌ・エヌ新社
- 企業再建・承継コンサルタント協同組合（2020）『中小企業経営者の悩みに応える－経営相談シート集』銀行研修社
- 佐々木康裕（2020）『感性思考 デザインスクールで学ぶ MBA より論理思考より大切なスキル』SBクリエイティブ
- 佐藤伝（202）『ひとりビジネスの教科書 Premium－自宅起業でお金と自由を手に入れて成功する方法』学研プラス
- ジャスパー・ウ（2019）『実践スタンフォード式デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決』インプレス
- 須藤秀紹・粕谷亮美（2016）『読書とコミュニケーション ビブリオバトル実践集 小学校・中学校・高校』子どもの未来社
- 高谷幸（2022）『多文化共生の実験室 大阪から考える』青弓社
- 谷口忠大（2021）『コミュニケーション場のメカニズムデザイン』慶應義塾大学出版会
- 谷口忠大（2013）『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』文藝春秋
- 中野裕哲（2015）『図解 知識ゼロからはじめる起業の本』ソシム
- 永吉希久子（2021）『日本の移民統合－全国調査から見る現況と障壁』明石書店
- 日本図書館協会（1976）『市民の図書館』日本図書館協会
- 日本図書館協会（2017）『多文化サービス実態調査 2015 報告書』日本図書館協会
- 日本図書館協会（2012）『多文化コミュニティー図書館サービスのためのガイドライン』日本図書館協会
- 根来龍之（2020）『この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる』SBクリエイティブ
- ビブリオバトル普及委員会（2015）『ビブリオバトル ハンドブック』子どもの未来社
- 古田真由美・平真理（2015）『ダンゼン得する 知りたいことがパッとわかる 起業と会社経営の実務がよくわかる本』ソーテック社
- 堀新一郎・琴坂将広・井上大智（2020）『STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動した

か』NewsPicks パブリッシング

三谷宏治（2019）『新しい経営学』ディスカヴァー・トゥエンティワン

箕曲在弘（2022）『新大久保に生きる人びとの生活史－多文化共生に向けた大学生による社会調査実習の軌跡』明石書店

山田幸三（2018）『経営学概論』放送大学教育振興会

吉田信昭（2022）『経営者が知るべき基礎知識と仕組みがよくわかる本』現代書林

吉田渉・松本敦則・貫井政文（2022）「課題解決型図書館へ向けた実践的研究－三鷹市立図書館を事例として－」『三鷹まちづくり研究』2, pp. 69-84

六角明雄（2017）『図解でわかる 経営の基本 いちばん最初に読む本』アニモ出版

渡辺幸倫（2019）『多文化社会の社会教育－公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』明石書店